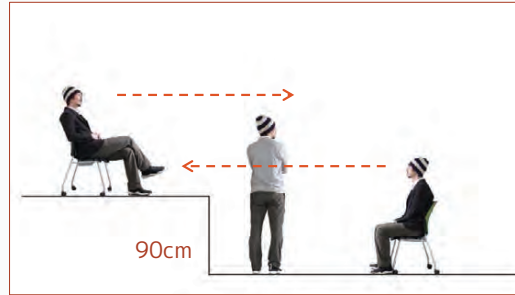
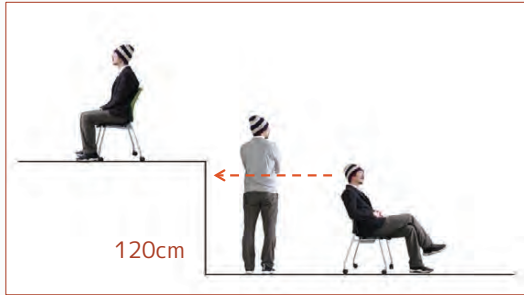


広場と歩道間に設ける高低差は、視覚的連続性と立ち寄りのしやすさの確保のため90cm以下にするように、との指摘。 — by クレア・クーパー・マーカス  
「人間のための屋外環境デザイン」(原著:1990)

120cm

90cm



→ 座ると、下から上に視線が通らない。  
= 視覚的連続性を制限する空間構成

→ 下から上に視線が通る。  
= 眺望と視覚的連続性を確保した空間構成

・ 1.5m程度の高さの小高い場所



警固公園  
/ 福岡市中央区

“人間活動がある場所で、最も人の行きたがる地点は、見晴らしが効く程度に小高く、活動に参加できる程度に低い地点である”

- クリストファー・アレグザンダー「パターン・ランゲージ」(原著:1977)

・ 1.5m程度の高さの小高い場所



南池袋公園  
/ 東京都豊島区

・ 1.5m程度の高さの小高い場所



南池袋公園  
/ 東京都豊島区



- ・ 高低差をつなぐ場所に十分な幅員が確保できるときには、展望のための小空間を設ける



ゆいの広場ひらり  
/ 山梨県山中湖村

→ 5. ふと立ち寄りやすい境界部：広場の境界部に、広場を見渡せる小広場を設ける。

- ・ 高低差をつなぐ場所に十分な幅員が確保できるときには、展望のための小空間を設ける



PHOTO: WolfgangM / Flickr (CC)表示2.0

- ・ 滞留空間と通行空間の分離のための高低差：15cmで十分



中野セントラル  
パーク・外構部分  
/ 東京都中野区

“レベルの変化を坐るエリアと通行するエリアとを分離する手段として考慮しているか”

- クレア・クーパー・マーカス「人間のための屋外環境デザイン」(原著:1990)

スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽しませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

8 自由な腰掛け

休憩や滞在のための空間には、ベンチなどの腰掛けは必須の要素である。利用者の座りたい・滞在したいという欲求に応えるため、観光地の空間には豊富な腰掛けがあるのが望ましい。一方で、空気が目立つベンチは空間に寂しさも与える。そこで、空席時にも「空き」を意識させないような、「ベンチ以外の形態の腰掛け」の充実が必要となる。それはベンチよりもくつろいだ姿勢など、多様なスタイルでの滞在や休憩を可能にするものでもある。



利用者の興味や欲求にあわせた多様なベンチ  
北三条広場(札幌市中央区)

- < 入隅の空間
- < 質の良い閉鎖空間
- < 人間のための屋外環境デザイン<sup>1)</sup>



スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽ませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

チェックポイント

- ・広場内のベンチについて、利用者の興味や欲求にあわせた配置が検討されていること。
- ・ベンチ等の置かれる場所について、「9.まもってくれるもの」にも配慮されていること。

以上を前提として、以下について確認すること。

- ・利用に適した場所に、十分な数の腰掛けが設置されていること。
- ・単純なベンチ以外のさまざまなタイプの腰掛けが用意されていること。
- ・特に、通常のベンチよりも奥行きを深く、90cm程度とした腰掛けがあること。
- ・ベンチの供給過多とならぬよう、ベンチには見えない腰掛けも工夫されていること。

数値的目安としては、以下が利用できる。

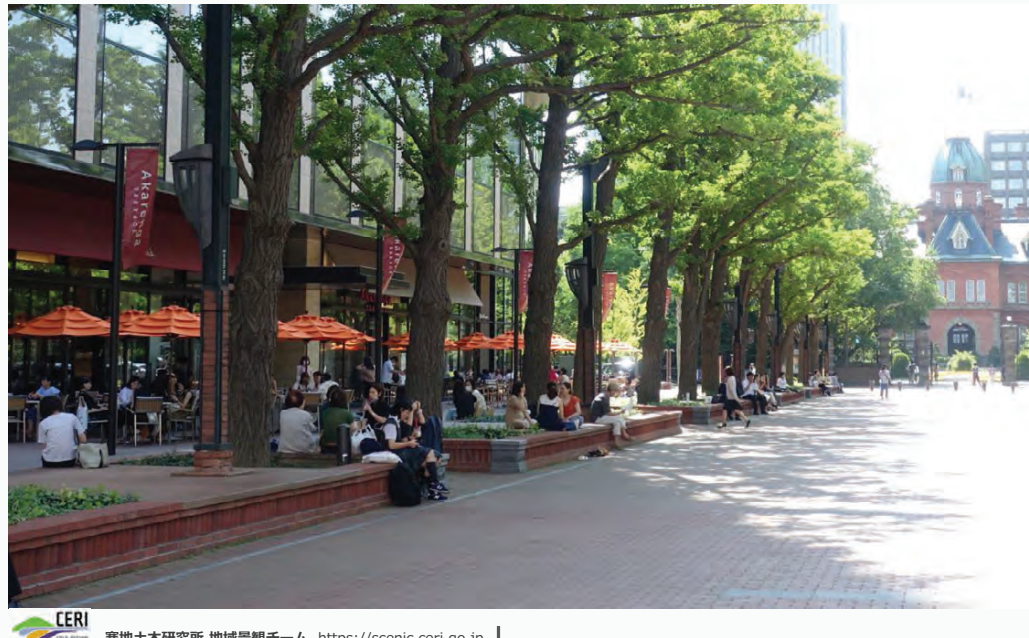
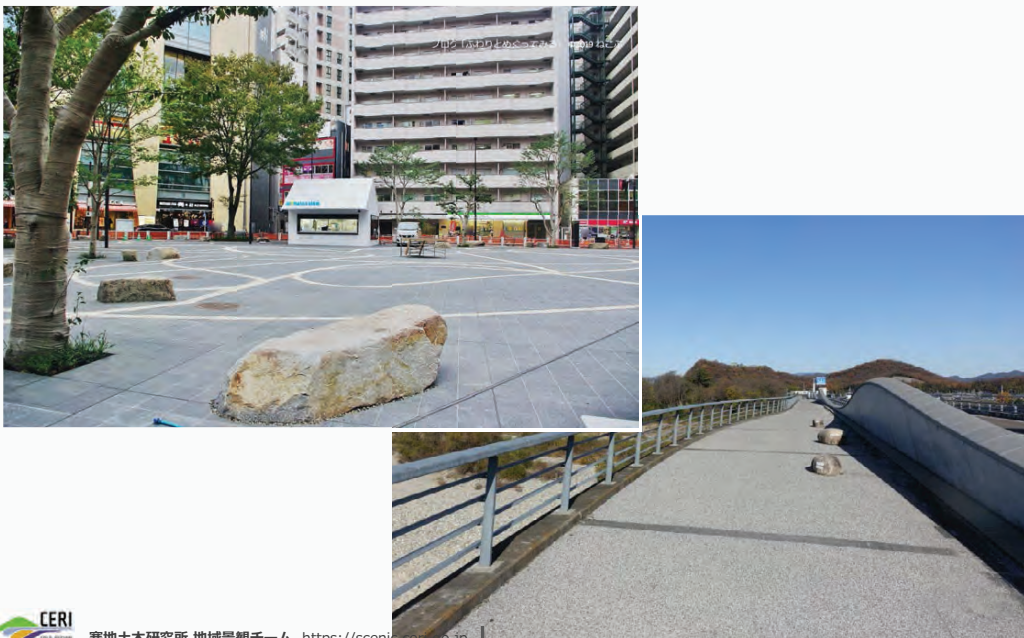
- ・人が集まって滞在する広場の部分には、広場の面積10m<sup>2</sup>ごとに、延長1mの腰掛け場所。
- ・ベンチ総量のおおよそ1/2を、ベンチ以外の腰掛けとして設置する。

処方の例

- ・ベンチに見えない腰掛け







スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽しませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

9. まもってくれるもの

広い空間にぼつんといのは心細いものである。決して居心地のよい環境とはいえない。利用者に落ち着いて滞在してもらうことを期待する場所には、そんな利用者にとって拠り所となるもの、「まもってくれるもの」が必要である。ベンチやイスを置く場所、利用者が腰かける場所に、「まもってくれるもの」や「拠り所になるもの」を適切に配置しているだろうか？



「まもってくれるもの」  
樹木に寄りそうように置かれたベンチ  
道の駅・かみしほろ（北海道土士幌町）

- < 入障の空間
- < 質の良い閉鎖空間
- < 人間のための屋外環境デザイン<sup>1)</sup>



スケール区分1

個別の滞在空間

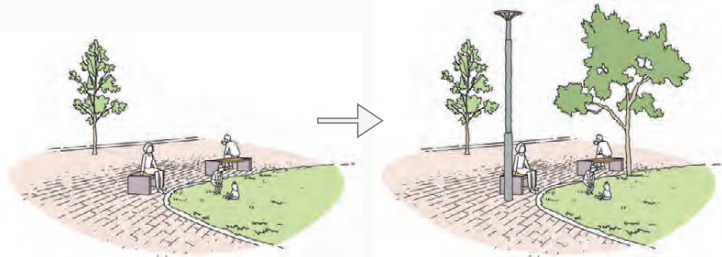
立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽ませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

チェックポイント

- ・ベンチやイスを置く場所、利用者が腰掛けることを期待する場所には、「まもってくれるもの」や「廻り所になるもの」をあわせて設ける。
- ・「まもってくれるもの」のない、ぽつんと置かれたベンチが設置されていないか。
- ・「まもってくれるもの」には、頭上をまもってくれる樹木やシェルター、背後や側面をまもってくれる壁や植え込みなどが該当する。
- ・また、「廻り所になるもの」には、ベンチのそばに置かれた照明柱や、みなで囲むことができるテーブルが該当する。(誰かが見守ってくれている、ほかにも誰かがいる、を暗示する存在だからだろうか。)

処方の例

- ・ベンチの側には、樹木や照明を設ける。



事例元ネタ  
阿波池田ふらっとスクエア/徳島県三好市

スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽ませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

・「守ってくれるもの」のないベンチの例



スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽ませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

・「守ってくれるもの」のないベンチの例



スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽ませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

- ・「3. 象徴的な場所」や「14. 目をたのませるもの」を満足する滞在空間などでは、「まもってくれるもの」が存在しない腰掛けがあるのが、いくつかの事例で見受けられる。
- ・「そこに滞在する理由」「そこに滞在しなければならない理由」が別にあるときは、必ずしも「まもってくれるもの」がなくても良いようである。



円形広場の中心に向かって配置された多数のベンチ  
事例： 普園公園/福岡市中央区



噴水を囲むように円形に配置されたベンチ  
事例： 大通公園/札幌市中央区

スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽しませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

14 目を楽しませるもの

広場に滞在して退屈に思うことは、広場の利用を中断する大きな理由となりうる。広場に、利用者の目を楽しませる何か、興味をひく何かがあることは、その空間の利用を継続させる効果がある。これには、広場内に設置された噴水や動きのあるモニュメントなどの施設が該当しうが、広場内で行われているイベントやパフォーマンスなども該当する。あるいは広場内やその周辺において、行き交う人々や車、鉄道、水面を行き交う船舶等を眺めるのも、悪くない時間の過ごし方である。



行き交う船を眺められる水際の広場 (フランス・ラロシェル)

チェックポイント

- ・広場内に、噴水や動きのある水景、動きのあるモニュメントなどが設けられていること。
- ・イベントやパフォーマンスなど、利用者の目を興味を引くものが行われていること。
- ・適切な距離を置いて、行き交う人々や車、鉄道、水面を行き交う船舶等を眺めることができること。
- ・ただし、この場合は、それらの眺める対象よりも強い立場でこれらを眺められなければならない。強い立場とは、すなわち眺めの対象よりも高い場所に位置し、これらを俯瞰的に眺められるとともに、それらの眺めの対象の発する騒音等により自身の落ち着いた滞在を阻害されないことである。

スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽しませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

チェックポイント

- ・広場内に、噴水や動きのある水景、動きのあるモニュメントなどが設けられていること。
- ・イベントやパフォーマンスなど、利用者の目を興味を引くものが行われていること。
- ・適切な距離を置いて、行き交う人々や車、鉄道、水面を行き交う船舶等を眺めることができること。
- ・ただし、この場合は、それらの眺める対象よりも強い立場でこれらを眺められなければならない。強い立場とは、すなわち眺めの対象よりも高い場所に位置し、これらを俯瞰的に眺められるとともに、それらの眺めの対象の発する騒音等により自身の落ち着いた滞在を阻害されないことである。



スケール区分1

個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽しませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

15 飲食機会の提供

「14：目を楽しませるもの」と同様に、広場での飲食はその場所に滞在する大きな理由となる。逆に言えば優れた環境や風景の中での飲食は、最高のぜいたくである。広場やその周辺にキオスクやオープンカフェが設置され、その場所の環境や風景を心ゆくまで楽しむことができることは、その場所の価値を飛躍的に高めるものである。



< カフェは、衆目のなかで合法的に腰を下ろし、移りゆく世界をのんびり眺められる場所

< パタン・ランゲージ<sup>5)</sup>

< 弁当か露店で買求めた食物を座って食べる快適な場所  
< キオスクか屋外レストランをもつ広場は、そのような特徴をもたない広場より人を惹きつける可能性が高い。

< 人間のための屋外環境デザイン<sup>1)</sup>



## 1. 自然と利用される場所

176

- 多くの人に自然と利用される場所にあること。
- ・「ノード(Node,結節点)」や、既存の拠点等に隣接
  - ・行き止まりの立地でない

### 合致しない事例



神戸  
メリケンパーク

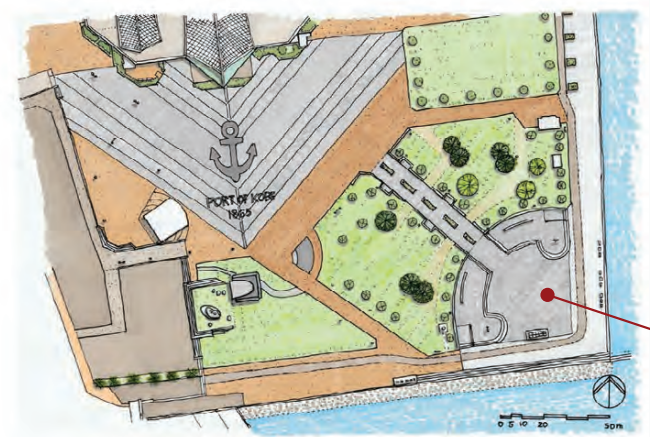
先端の  
行き止まりの位置  
にある広場

## 1. 自然と利用される場所

177

- 多くの人に自然と利用される場所にあること。
- ・「ノード(Node,結節点)」や、既存の拠点等に隣接
  - ・行き止まりの立地でない

### 合致しない事例



神戸  
メリケンパーク

先端の  
行き止まりの位置  
にある広場

## 2. 水面や景観資源への眺望

178

- 水面や景観資源などへの眺望があることは、  
広場のアイデンティティとなり、  
利用者にとってはそこを訪れ、滞在することの魅力となる。

### 合致する事例



大通公園



北三条広場

## 3. 広場の焦点

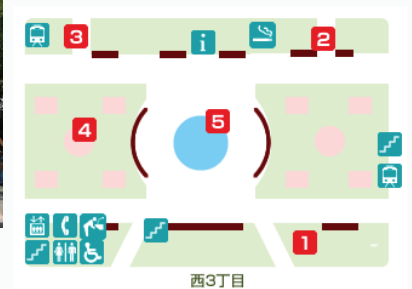
179

- 広場に「象徴的な場所」あるいは「焦点」となる場所があり、  
印象的な空間構成であること。

### 合致する事例



大通公園



西3丁目



## 4. 多様な小空間

180

規模の大きな広場では、広場内にいくつかの環境の異なる小空間を設け、利用者の興味にあわせて利用できるようにする。



新宿三井55ひろば



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

## 5. ふと立ち寄りたくなる境界部

181

広場等の入口は、空間を区分しつつも、利用者を広場内に引き込むようなデザインが境界部にあること。



大通公園



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

## 6. 適正な密度感

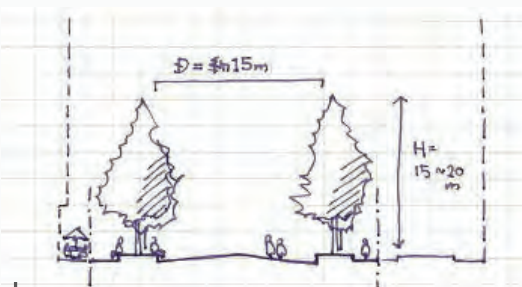
182

広すぎる空間は、殺伐として居心地の悪いものとなる。  
人間的なスケール（ヒューマンスケールとも）の広場の目安としては、空間の幅 $D=24\text{m}$ 以下（あるいは $21\text{m}$ 以下、文献等により異なる）、 $D/H$ （空間の広がり立ち上がり高さの比。街路であれば幅員と沿道建物高さの比） $=3$ 以下というのがある。

### 合致する事例



北三条広場



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

## 7. 広場内の高低差

183

広場内の高低差は、見晴らしの良い場所を提供する。  
見通しを確保しつつ、空間をゆるやかに分節することもできる。  
また、高低差は、座りやすい階段や段差を生む。



軽井沢  
ハルニレテラス

草津温泉  
湯畑湯路広場



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>



## 8. 自由な腰掛け

184

広場には、利用者のニーズに応えるだけの**十分な数の腰掛け**があるのが望ましいが、一方で、利用者が少なく空きが目立つベンチは空間に寂しさも与える。

そこで、**空席時にも「空き」を意識させないようなベンチ以外の形態の腰掛け**（腰掛けることができる段差や構造物、芝生など）の充足が期待される。

そのような腰掛けは、ベンチよりも**自由な姿勢で利用**することができ、長時間の滞在にも適していることがある。



東京駅  
丸の内駅前広場

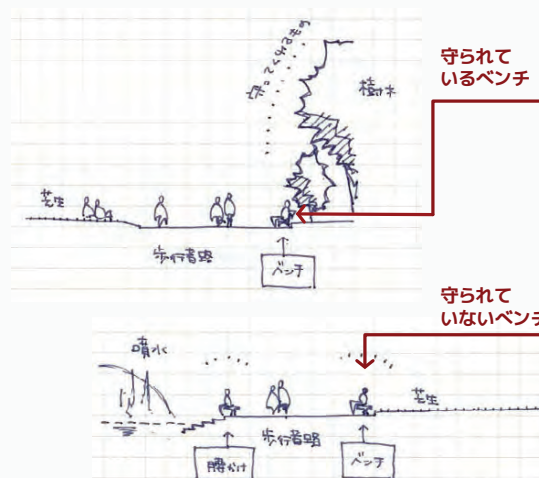


横浜市 みなとみらい  
グランモール公園

## 9. 守ってくれるもの

185

主要な休憩・滞在のための空間においては、植栽や壁、シェルターなどによって**“領域性”**が確保されていること。



守られていないベンチ



## 10. 通路と溜まりの分離

186

広場等においては、歩行動線と休憩・滞在空間が適切に分離され、人通りによって阻害されることなく、落ちついて休憩・滞在できる空間が確保されていることが望まれる。

### 合致しない事例



大通公園

## 11. 適切な植栽の配置と管理

187

見上げるような豊かな緑と、手の届くところに目を楽ませる草花があること。緑陰と木漏れ日、彩りの草花があること。

スイス・ツェルマツト

層雲峡  
キャニオンモール



福岡市 警固公園



## 12. 豊かな素材とディテール

188

豊かな肌触りやテクスチャのある材料もしくは表面加工が  
主要な部分に用いられていること。



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

## 12. 豊かな素材とディテール

189

豊かな肌触りやテクスチャのある材料もしくは表面加工が  
主要な部分に用いられていること。

美瑛駅前広場



横浜市  
みなとみらい地区



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

## 13. 広場を彩るもの

190

広場の中に、その場所を管理する人の存在を感じさせるような  
彩りの要素が添えられていること。

そういった要素は、風雨に耐える硬いものではなく、風にゆらめく、はかない構造のものがよい。



たたまれたパラソル



美しく保たれた草花



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

## 14. 目を楽しませるもの

191

動きのある”魅力的な興味の対象”があること。  
動きのあるモニュメントや水の流れ、観覧自由のパフォーマンスなどがあると、  
飽きずにその場での時間を過ごすことができる。



岩内町  
いわないマリンパーク

京都市  
高瀬川・木屋町



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>



露店、キオスク、屋外カフェ、テイクアウトの飲食店などが  
見通せる範囲にあること。

福岡市  
大濠公園

大通公園



マーケットやマルシェなどのイベントが日常的に開催されていること。  
ただし、誰もが利用しやすい広場の環境が保たれていること。



島根県 津和野町  
鶯舞モニュメント広場  
まるごと津和野マルシェ

Photo: minna  
<https://minna-design.com/works/4548/>



横浜市  
みなまきみんなの広場

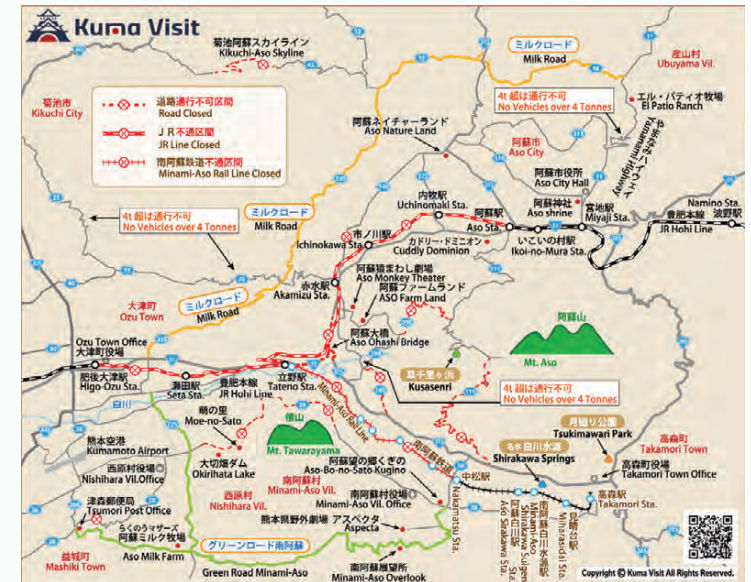


Photo: 全国まちなか広場研究会  
<http://machinakahiroba.main.jp/2018/03/30/>

スケール区分3  
広域的な観光エリア

象徴景	
1.	景観阻害要素
2.	風景のアクセントとなる要素
ルート上の風景体験	
3.	眺望に優れた区間の延長/比率
4.	眺望を阻害する道路附属物
5.	地形に調和しない道路構造物
沿道休憩施設	
6.	眺望・風景体験
7.	滞在サービス

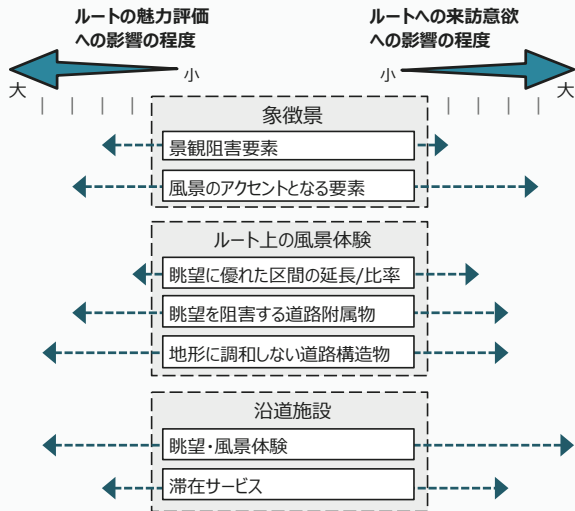
「広域的な観光エリア」と  
それを構成する「道路ルート」





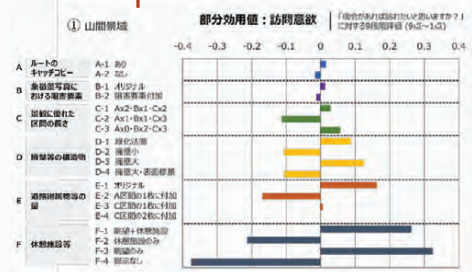
「広域的な観光エリア」に関する「観光地の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン」

... 3グループ・7項目



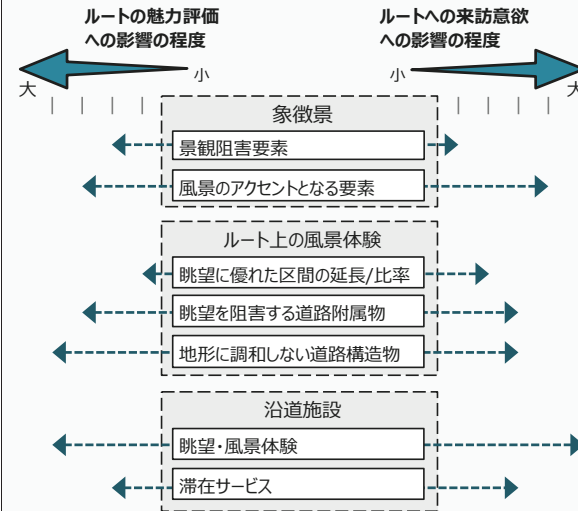
広域的な観光エリア・道路ルートの魅力に影響を及ぼしうる項目と、その影響の大小の相対的な比較を提示。

ルートの景観と魅力評価の関係に関するアンケート調査結果など



「広域的な観光エリア」に関する「観光地の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン」

... 3グループ・7項目



写真出典：BikeBros.

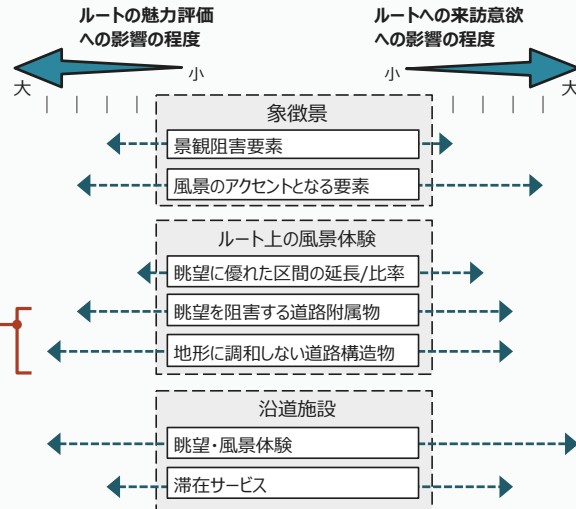
「広域的な観光エリア」に関する「観光地の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン」



眺望を阻害する道路附属物



地形に調和しない道路構造物





観光的魅力を持つ道路ルート の魅力要因 とは？

より一般的には「ドライブルート」。本研究では「眺望道路ルート」と呼ぶ。「シーニックバイウェイ」なども、これを目的のひとつとしている。



観光的魅力を有する道路ルートの一例  
阿蘇パノラマライン / 熊本県

観光的魅力を持つ道路ルート の魅力要因 とは？

より一般的には「ドライブルート」。本研究では「眺望道路ルート」と呼ぶ。「シーニックバイウェイ」なども、これを目的のひとつとしている。



優れた観光体験が得られる道路を、効果的・効率的に実現できれば、地域の魅力向上に寄与できる。

一定のまとまりをもった道路区間を「道路ルート」と呼び、この道路ルートの景観等の状況と、道路ルートの観光的魅力の関係について、事例をもとに分析。

... 道路ルートの観光的魅力の向上に効果的な道路景観の改善策について考察

調査分析のための事例 (サンプル) として用いる  
観光的魅力を持つ道路ルート = 「眺望道路ルート」の事例

観光ガイド誌などから抽出



ルートの「象徴景」

当該ルートの魅力を端的に伝えるために使われる風景写真・観光ガイドの表紙、扉ページ・観光ポスター

八幡平アスピーテライン

- ルートの名称
- ルートの区間

「眺望道路ルート」の風景区分



S. 象徴景



A. 象徴景類似区間

象徴景と同様の優れた風景体験が得られる区間



B. 良風景区間

象徴景とは異なるが比較的優れた風景体験が得られる区間



C. 普通区間

特筆すべき風景体験は得られない区間



- > 眺望道路ルートの走行体験を模したスライドショー動画を複数作成、被験者に提示。各ルートに対する評価を尋ね、走行中の風景体験とルートの評価の関係に対する被験者評価データを得る。

被験者評価 ... Webアンケート形式、2021年3月

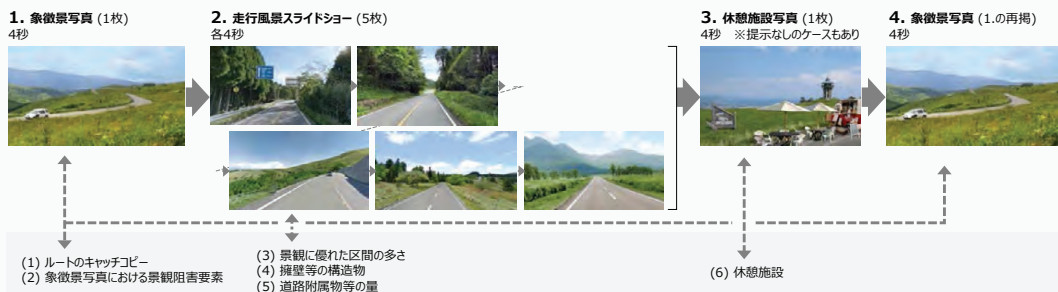
- > 評価データをもとに、被験者評価に影響を与えた道路ルート中の要因について、コンジョイント分析法等により分析。

- >> 眺望道路ルートの魅力や訪問意欲に影響を与える要因について考察。

提示したスライドショー動画

- 眺望道路ルートの走行体験を模したもの。
- 道路上からの風景写真を複数枚(5~7枚)組み合わせて構成。
- ルートは架空のもので、地理的に異なるルートの風景写真も含む。
- スライドショー動画は、1.山間景域、2.丘陵高原景域、3.海岸湖沼景域 の3パターン。

アンケートにおいて提示した一連のスライドショー動画 1パターン(評価対象ルート)あたり。トランジション(写真の切り替え)含み、約40秒。各回答者には、同様の構成の6パターンについて提示、回答を求めた。



- スライドショーを構成する一部の写真を、異なる写真に押し替えたり、フォトモンタージュ加工により変更。
- 押し替えに伴う被験者評価の変化を把握。
- ルート評価に影響を及ぼした要因について分析。

<b>(1) ルートのキャッチコピー</b>		<b>(2) 象徴写真における景観阻害要素</b>	
あり	なし	オリジナル	阻害要素付加
<b>(3) 眺望に優れた区間の長さ</b> ... 5枚の写真によるスライドショー動画を以下の構成で作成。			
多	中	少	
A区間x2 B区間x1 C区間x2	A区間x1 B区間x1 C区間x3	A区間x0 B区間x2 C区間x3	
<b>(4) 擁壁等の構造物</b>			
緑化法面	コンクリート擁壁小	コンクリート擁壁大	擁壁大・表面修景
<b>(5) 道路附属物等の量</b>			
オリジナル	C区間の1枚に付加	C区間の2枚に付加	A区間の1枚に付加
<b>(6) 休憩施設等</b>			
写真提示なし	眺望のみ	休憩施設のみ	眺望+休憩飲食施設

<b>(1) ルートのキャッチコピー</b>		<b>(2) 象徴写真における景観阻害要素</b>	
あり	なし	オリジナル	阻害要素付加
<b>(3) 眺望に優れた区間の長さ</b> ... 5枚の写真によるスライドショー動画を以下の構成で作成。			
多	中	少	
A区間x2 B区間x1 C区間x2	A区間x1 B区間x1 C区間x3	A区間x0 B区間x2 C区間x3	
<b>(4) 擁壁等の構造物</b>			
緑化法面	コンクリート擁壁小	コンクリート擁壁大	擁壁大・表面修景



(5) 道路附属物等の量と出現区間



(6) 休憩施設等



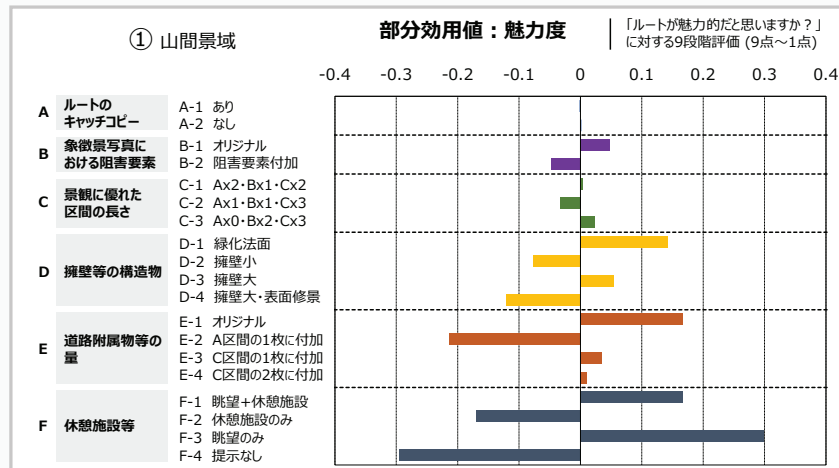
調査分析の方法

- 48種類の各40秒程度のスライドショー動画
- 被験者320名を8グループに分けて、各グループは各6種類について回答。

評価サンプル	48種類 (16パターンx3景域) 各40秒程度のスライドショー動画
回答者	320名 回答者を8グループに分け、グループごとにいずれか6サンプルについて回答。 男女比同等。20歳未満は除外。
回答者条件	委託先において、登録利用者から無作為抽出。 ただし、以下のいずれかに該当する回答者は除く。 ・旅行中の主たる移動手段として「自家用車」または「レンタカー」を、「ほとんど利用しない」または「全く利用しない」。 ・日帰り旅行・宿泊旅行の頻度が「数年に1回」以下。
調査方法	Webアンケート形式
調査時期	2021年3月

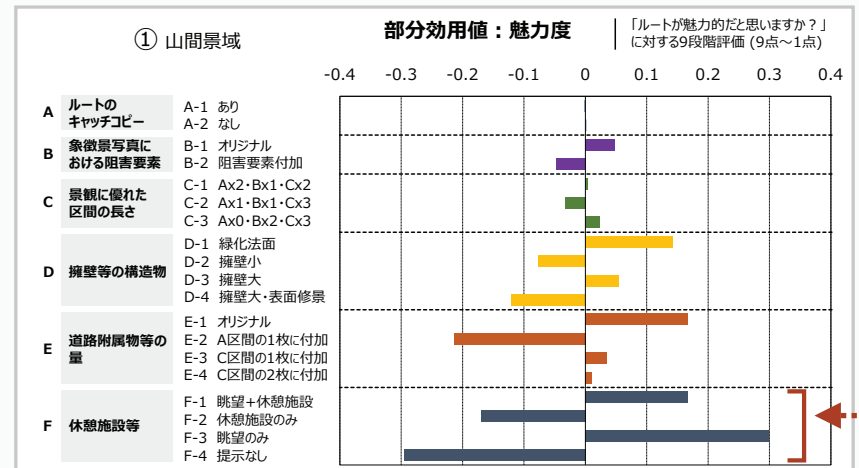
調査分析の結果 (コンジョイント分析)

アンケート調査で尋ねた「(提示されたルートについて) **魅力的だと思うか**」の設問に対する回答(9段階)を用いたコンジョイント分析の結果。  
・各評価項目の部分効用値 ・ ①山間景域に関するもの



調査分析の結果 (コンジョイント分析)

アンケート調査で尋ねた「(提示されたルートについて) **魅力的だと思うか**」の設問に対する回答(9段階)を用いたコンジョイント分析の結果。  
・各評価項目の部分効用値 ・ ①山間景域に関するもの



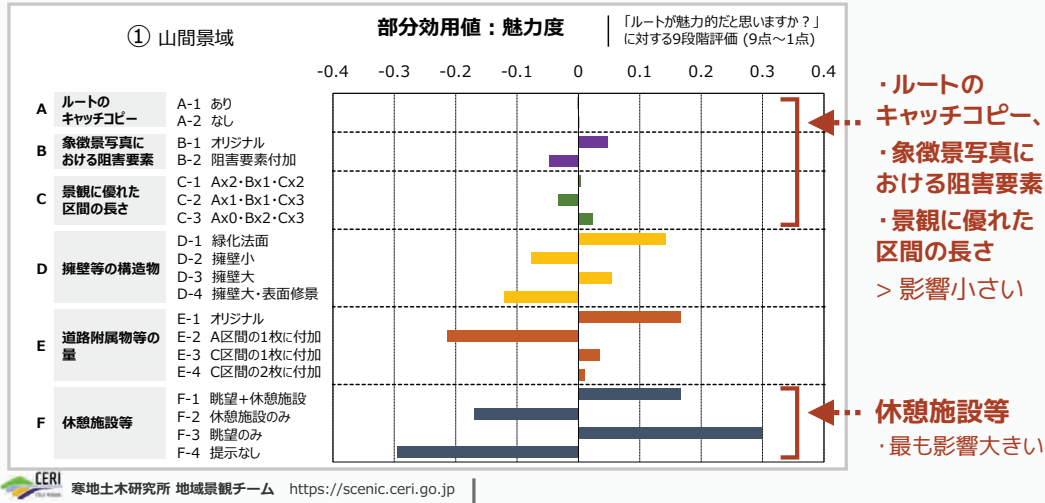
休憩施設等  
・最も影響大きい



## 調査分析の結果 (コンジョイント分析)

アンケート調査で尋ねた「(提示されたルートについて) **魅力的だと思うか**」の設問に対する回答(9段階)を用いたコンジョイント分析の結果。

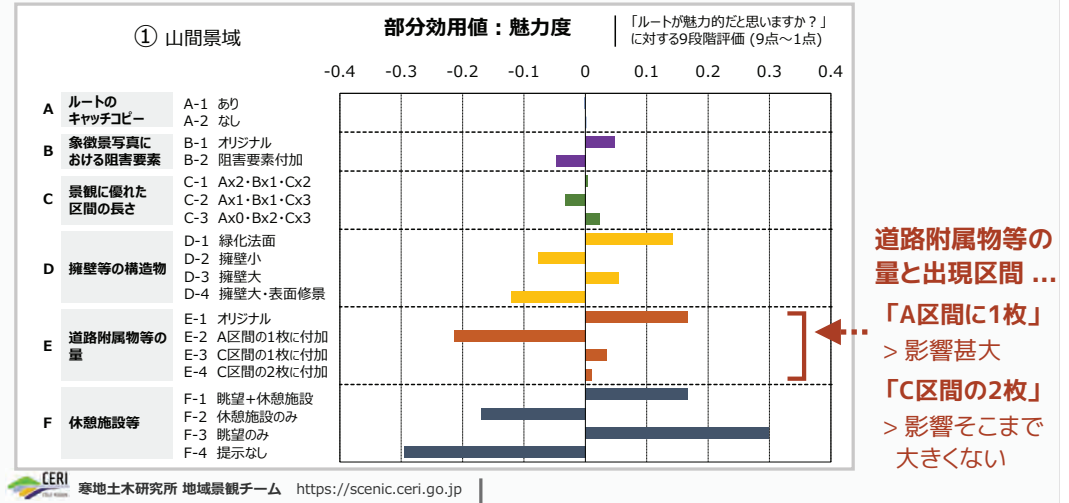
・各評価項目の部分効用値 ・①山間景域に関するもの



## 調査分析の結果 (コンジョイント分析)

アンケート調査で尋ねた「(提示されたルートについて) **魅力的だと思うか**」の設問に対する回答(9段階)を用いたコンジョイント分析の結果。

・各評価項目の部分効用値 ・①山間景域に関するもの

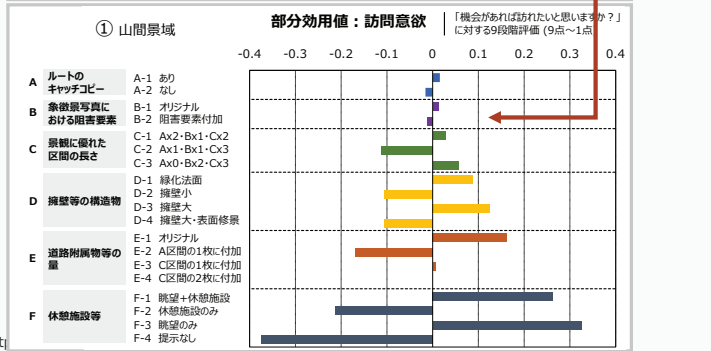
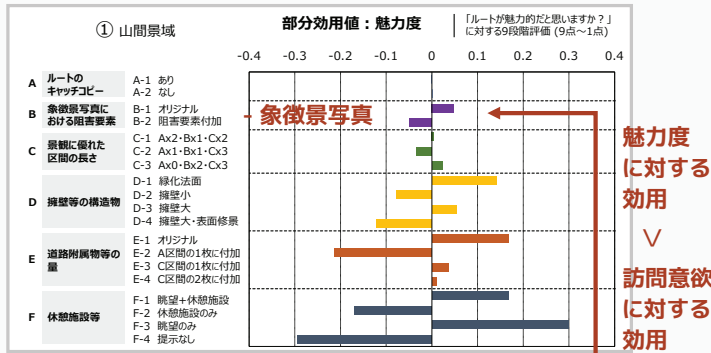


## 調査分析の結果

上段:  
「**魅力的だと思うか**」  
に対する回答(9段階)  
... **魅力度**

下段:  
「**機会があれば訪れてみたいと思うか**」  
に対する回答(9段階)  
... **訪問意欲**

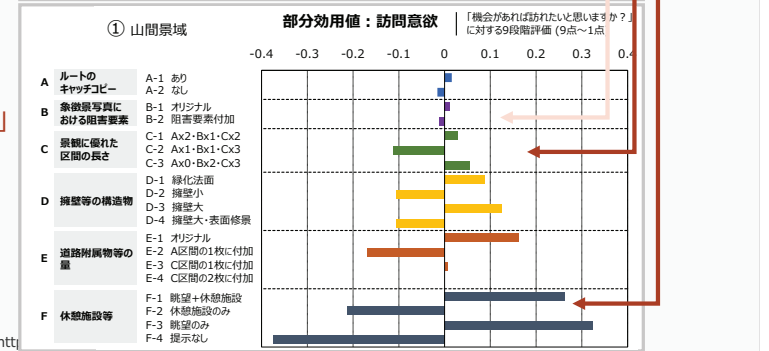
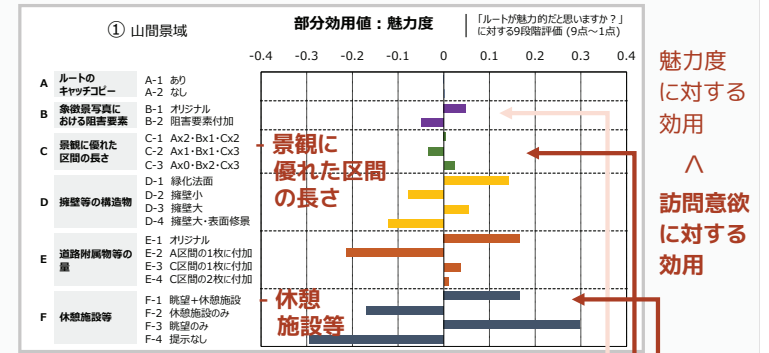
・①山間景域



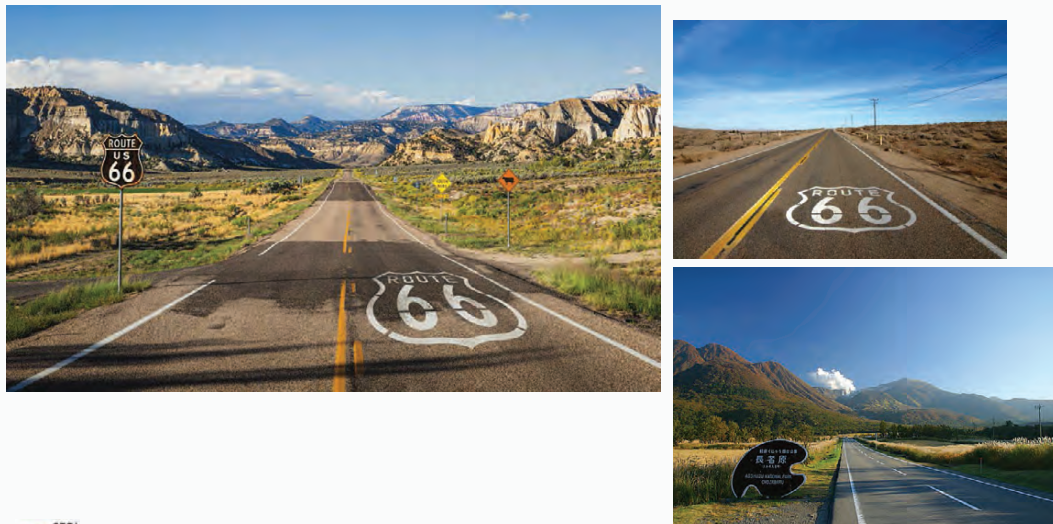
## 調査分析の結果

上段:  
「**魅力的だと思うか**」  
に対する回答(9段階)  
... **魅力度**

下段:  
「**機会があれば訪れてみたいと思うか**」  
に対する回答(9段階)  
... **訪問意欲**



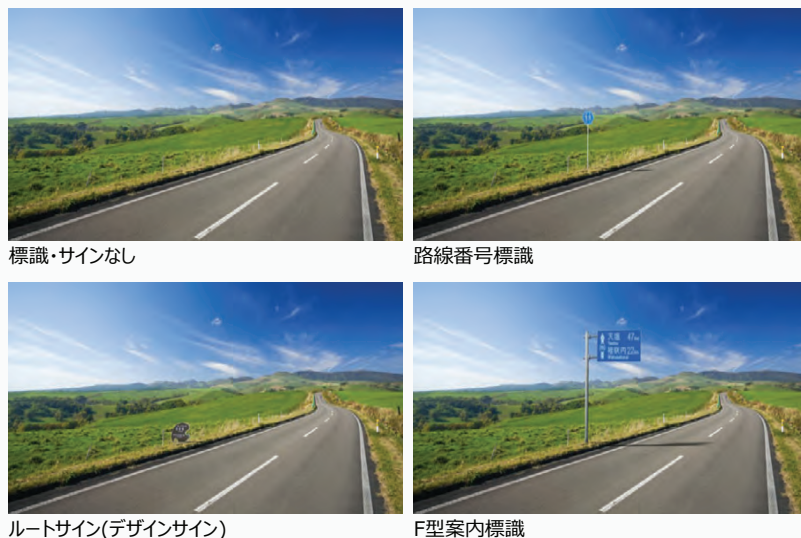
「象徴景写真」に含まれる **標識・サイン類** のルートの訪問意欲の評価に与える影響



「象徴景写真」に含まれる **標識・サイン類** のルートの訪問意欲の評価に与える影響



「象徴景写真」に含まれる **標識・サイン類** のルートの訪問意欲の評価に与える影響



標識・サインなし

路線番号標識

ルートサイン(デザインサイン)

F型案内標識

「象徴景写真」に含まれる **標識・サイン類** のルートの訪問意欲の評価に与える影響

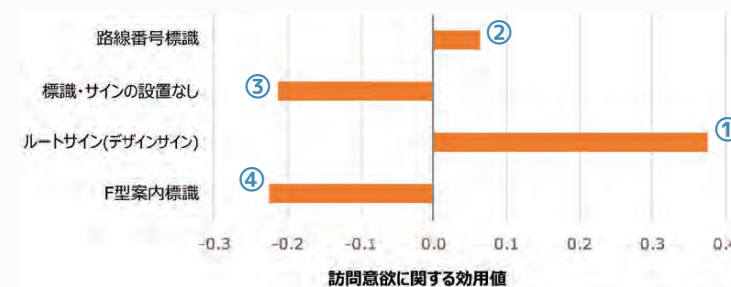


標識・サインなし

路線番号標識

ルートサイン(デザインサイン)

F型案内標識



※「機会があれば訪れたいと思いますか？」に対する9段階評価(9点~1点)



- ・眺望道路ルートにおいて、「象徴景」の魅力は誘客の上で重要。
- ・しかし、再来訪意欲(リピート意欲)には、実際の「走行体験」のほうが寄与大の可能性。
- ・また、その「走行体験」には、ルート走行中の風景体験だけでなく、ルート上の立ち寄り地点における滞在体験も大きく影響する。  
↳ ビューポイントパーキング、道の駅、、、
- ・道路附属物等によるルートの魅力への負の影響は、眺望体験の優れた区間でより大きい。  
> このような区間での道路附属物や構造物による景観の劣化は特に避けるべき。  
>> 眺望体験の優れた区間というものを見極め、適切に道路附属物や構造物をコントロールしていくこと。
- ・一方で、道路附属物や構造物の存在が風景の魅力を高めるケースもある。  
>> 適切な場所に設置された質の高いデザインのルートサインなどは、ルートの魅力を高める上で効果的な手法のひとつ。

「観光地の魅力向上」を実現する「屋外公共空間のデザイン」とは？

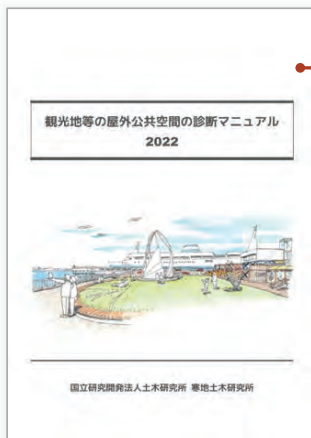
研究成果

観光地等の屋外公共空間の診断マニュアル

観光地等の屋外公共空間の診断マニュアル  
2022



国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

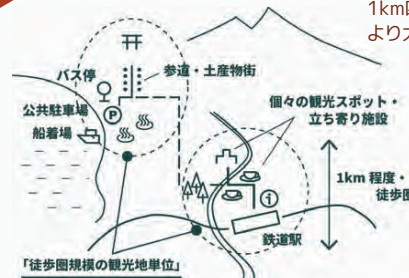


観光地等の魅力向上に寄与する「屋外公共空間のパターン」

- 評価対象とする観光地のスケール区分 .. 3区分
- 全31の「パターン」
- 「パターン」と屋外公共空間の現状等の一致を確認することで、課題の抽出や改善策の検討を行う。

1 徒歩圏規模の観光地単位

... 徒歩で一息で回れる観光地の範囲を、単位として捉える。  
1km四方、あるいは半径500m程度。  
より大きな観光地の捉え方の中に、複数設定できる場合もある。  
例：横浜 > みなとみらい、関内、山手、元町・中華街・山下公園



2 個々の滞在空間

... 広場等の屋外の滞在空間



3 広域的な観光エリア

... 「富良野」「美瑛」「阿蘇」など、自動車等で周遊



↑ 稚内・利尻・礼文・留萌エリア (北海道公式観光サイト HOKKAIDO LOVE!)

各スケール区分ごとに、屋外公共空間の整備のポイントと考えられる事項を、事例分析等を通じて抽出整理。

「観光地の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン」

3スケール区分で計31項目。

スケール区分1  
個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所 2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点 4. 多様な小空間 5. ふと立ち寄りたくなる境界部 6. 適正な密度感 7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け 9. 守ってくれるもの 10. 通路と溜まりの分離 11. 適切な植栽の配置と管理 12. 豊かな素材とディテール 13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽しませるもの 15. 飲食機会の提供 16. にぎわいの運営

スケール区分2  
徒歩圏規模の観光地単位

見て楽しめる
1. 観光地のアイデンティティとなる象徴景 2. 域内の緑・水と周囲の景観への眺望 3. 整えられた街並み
歩いて楽しめる
4. 適度な長さの散策路 5. 歩行者優先の街路空間 6. 散策や滞留の拠点となる広場等 7. 道ばたの休憩空間
構成要素
8. 屋外での時間の過ごし方

スケール区分3  
広域的な観光エリア

象徴景
1. 景観阻害要素 2. 風景のアクセントとなる要素
ルート上の風景体験
3. 眺望に優れた区間の延長/比率 4. 眺望を阻害する道路附属物 5. 地形に調和しない道路構造物
沿道休憩施設
6. 眺望・風景体験 7. 滞在サービス

→「パターン」に基づき屋外公共空間の診断を行うことで、観光地の魅力改善のポイントの抽出や検討が可能となる。

→ 観光地の魅力改善の効果的な実現に寄与

※「パターン」= C.アレグザンダーの「A Pattern Language」で言うところの「パターン」



<https://scenic.ceri.go.jp/manual.htm>  
※ 未掲載



<https://www.tokeikyoku.or.jp/books/shintoshi.html>



[https://thesis.ceri.go.jp/db/documents/public\\_geppo\\_month/2023/8/](https://thesis.ceri.go.jp/db/documents/public_geppo_month/2023/8/)



おわり

今後とも寒地土木研究所 地域景観チームをよろしくお願いいたします。

地域景観チーム 主任研究員 笠間聡

[kasama@ceri.go.jp](mailto:kasama@ceri.go.jp)

<https://scenic.ceri.go.jp>